令和５年度東京都立松が谷高等学校学校経営報告

5 松が谷高第 2196 号
令和６年３月２５日
校長　茅野　眞起子

１　今年度の取組目標と自己評価について

教育活動の目標と方策

ア　学力向上への取り組み

（ア）生徒の可能性を信じ、学校全体で「やればできる」というスローガンを掲げた。集会などでの生徒への講話を実施し、生徒自身に「やればできる」という意識を持たせた。「意欲向上」生徒74.5%、保護者86.2%。今後も安心・安全な風土の醸成を目指す。

（イ）統合型校務支援システム及び定期考査採点・分析システムの有効活用を一層推進し、成績処理等に係る教員の負担軽減を図った。教職員の「在校時間の縮減」は昨年度より 28%増の 81.2%で、肯定的評価が高かった。

（ウ）各教科・学年で小テストや週末課題等、生徒の家庭学習時間を増やす取り組みを行ったが、毎日家庭学習を１時間以上する生徒は 29.7%（昨年より 12%減）となった。生徒の家庭学習時間を増やす工夫を継続する。

（エ）教科を問わず協働的な学びを推進し、生徒一人 1 台端末や Teams、スタディサプリ等を有効活用することで生徒の主体的な学びと基礎学力向上に資する実践を進めた。「授業満足度」生徒 81.0%（昨年より 2.0%増）保護者 84.0%（昨年より 10.9%増）となった。

（オ）各学年進行となっている「総合的な探究の時間」について、探究委員会を中心に１学年から３学年までの探究計画を共有することができた。各学年の探究計画を精選し、本校としての「総合的な探究の時間」をより一層充実させる

（カ）全教科で言語能力向上を図り、図書館を活用した読書活動推進、大学入試や民間検定試験に有効な読解力・記述力向上、プレゼン能力育成等の授業実践を計画的・組織的に行った。「読書活動推進」生徒 88.3%（昨年より 0.1%増）、教職員 84.4%（昨年より 1.7%減）

（キ）数学と英語において習熟度別学習を実施し、生徒・保護者に学習への苦手意識の解消と学力向上の効果を実感させる取組を行った。「習熟度別・少人数授業の効果」生徒 78.0%（昨年より 3.1%減）、保護者 79.9%（昨年より 1.3%増）、教職員 84.4%（昨年より 4.5%減）今後も個に応じた学力向上を図っていく。

（ク）自習室の活用についての利用時間は概算 3332 時間、満足度は 5 段階で 3.81 であった。また長期休業中の講習については、44 講座のべ 1884 名が参加し昨年度比 5 講座、約 220 名の増加があった。

（ケ）指導教諭による他校教員への公開も含めた模範授業、初任者教員の研究授業等を通じて授業改善や授業力向上を図った。授業公開、校内研修、生徒による授業評価等の推進と充実を継続し、生徒一人１台端末を有効活用した学習支援体制を確立する。

（コ）学力診断テスト等の実施後に分析会を行い、各教科担当がデータを基に生徒の学習習慣や学力推移を的確に把握し、学習指導の改善方法を検討した。

イ　希望進路の実現への取り組み

（ア）「進学指導研究校」として進路指導部を中心に模試データ等を分析し、一般入試受験生徒のケース分析を実施した。学年団と協力してデータに基づいた進路指導（進路面談）をより充実させ、生徒の自己実現を支援する。

（イ）グラデュエーション・ポリシーやキャリア教育プログラムに基づき、進路指導部を中心に各学年と連携して統一感を持った計画的・組織的な進路指導を行った。

（ウ）進路に関する情報や模擬試験、英語検定に係る連絡などを整理の上、進路通信や Teams 等を通して生徒・保護者にタイムリーに発信した。

（エ）生徒の進路意識を高めるため、「人間と社会」や「総合的な探究の時間」を活用し、進路ガイダンスや模試事後指導、高大連携による出張講義やキャンパス訪問等を実施した。

（オ）進学希望の生徒を支援するため、自習室の設備や利用環境を改善して利用生徒及び利用頻度の増加を図った。今年度から夏期・冬期休業中に校内での勉強合宿を実施した。夏期3年生128名(8日間)、冬期3年生20名(3日間)、2年生13名(2日間)、1年生21名(2日間)の参加があった。

（カ）進路指導の充実を図るため、１・２学年で学力診断テスト、３学年で模試等を実施した。2･3年生での英検全員受検と全教職員での実施体制により、英検準2級154名（昨年度181名）、2級109名（同83名）、準1級9名（同4名）の合格があった。昨年度より準1級や2級合格者が増加した。

（キ）学習、生活、進路等に関する生徒の情報共有化を図るため、拡大学年会（担任－教科担当連絡会）を実施した。また家庭との連携を図るため、三者面談期間を設定した。

（ク））新しい大学入試制度や専門学校・就職指導の変化に対応するため、進路指導部と他分掌・教科が連携して、組織的に小論文指導などを行った。

ウ　外国語の確実な習得への取り組み

（ア）「英語教育研究推進校」として、ＪＥＴ２名及びＡＬＴ６名を活用した英語による英語授業、ＩＣＴ等を活用した協働的学びにより英語４技能の着実な向上を図った。「英語教育充実度」生徒90.3%（昨年より1.9%増）、保護者91.6%（昨年より3.1%増）。

（イ）英語４技能向上のため、4,000 冊以上ある図書館の英語多読図書を授業で活用し、英語版ビブリオバトル（書評合戦）を実施した。

（ウ）夏期休業中の8月20日(日)～8月27日(日)までの８日間、希望者対象(１６名)にフィリピンでの語学研修を実施し、帰国後に校内での研修発表会も行った。

（エ）普段の授業内外でのJETやALTの活用の充実により、11月の学校説明会における外国語コース体験授業においてもJETやALTを活用し、中学生・保護者に外国語コースの実際と魅力を十分に伝えることができた。

（オ）海外からの修学旅行や留学生の受け入れ等の体験機会はなかったが、一昨年度から始まった韓国の高校とのオンライン交流は一層盛んになった。今後も外部機関と連携した海外生徒との交流を企画、実施する。

（カ）2･3年生の実用英語技能検定の受検対策として、JETを活用した2次試験前の面接指導を充実させ、全教職員体制で学年別目標級の取得を目指した。

エ　国際理解教育及び国際交流の充実

（ア）「海外学校間交流推進校」として、次世代リーダー育成道場への参加やオンライン実施を含めた交流機会を確保し、生徒が英語力を試したり、異文化を体験できる場を設けた。次世代リーダー１１期生として１名参加した。

（イ）１２月に東京桜ヶ丘学院からの紹介で、ウクライナの中学生・高校生が本校を訪問し、茶道や華道などの日本文化を体験してもらい、本校生徒と交流を図った。３月にはメキシコ大使館職員を講師に招き、１・２学年外国語コース生徒を対象に講演会を実施し、選択科目でスペイン語を履修している生徒を対象に交流イベントも実施した。同じく３月に、東京桜ヶ丘学院職員と留学生を講師に招き、講演会の後に、１・２学年の各クラスにおいて留学生との交流を図った。

（ウ）姉妹校となった韓国の高校とのオンライン交流などが一層盛んになった。

（エ）校内の各種英語コンテストやイベントを通じてJETやALTを審査員等として活用した。今後も授業内外で生徒のプレゼン技能や書く力など英語運用力の向上を図る指導を行う。

オ　生活指導充実への取り組み

（ア）身だしなみ指導として毎朝の立番指導や学期ごとに一斉指導週間を設けて全校体制で指導に当たる取組を進めた。今後も生活指導部と学年団が連携して身だしなみ指導を計画的に実施し、具体的な指導方法についても検討・改善しながら全校体制で指導に取り組む。

（イ）全教職員でチャイム着席の励行やスマートフォンの使用等の授業規律の徹底を図った。登下校時の自転車のマナーに関して地域からの苦情があり、その都度注意を呼び掛けて巡回や警備を強化した。自転車乗車時のヘルメット着用についても集会やホームルームでの周知、保護者にも連絡メールなどにより周知した。

（ウ）学期ごとに拡大生活指導部会を行い、日常的な指導方針等について協議した。盗難事故防止のため、全教員で当番制にして、毎時間、校内巡回を実施した。校則については生徒が主体的に考える機会を設定し、スカート丈についても安全面などの観点からも指導した。

（エ）安全指導については、登下校時のマナーへの苦情や自転車事故、不審者被害などへの迅速な対応を心がけ、警察と連携しながら通学路の巡回を行うなど生徒の安全確保に努めた。

（オ）外部講師を招き、がん教育講話やデートDV予防啓発講話、セーフティ教室として薬物乱用防止講話やネット犯罪防止講話、インターネットトラブル防止講話、命の講話を実施し、自殺予防、ネット犯罪の被害・加害等の防止を図り生徒の意識喚起を行った。

カ　部活動の充実と体力の向上への取り組み

（ア）全部活動27団体が大きな事故なく安全第一に活動を行った。アーチェリー部（全国大会出場）、陸上部（関東大会出場）、和太鼓部（日本太鼓ジュニアコンクール・全国大会出場）等の実績を残した。部活動加入率81％（昨年度72%）も9％増加した。

（イ）「部活動ガイドライン」に則り、活動日や回数だけでなく、安全・安心な部活動を心がけた。「部活動満足度」生徒77.5%(昨年度72.7%)、保護者74.2%(昨年度69.9%)と昨年度より満足度が上昇した。

（ウ）部活動保護者会や各部活動のお便りを通して、計画的な部活動の実施と熱中症防止対策の徹底や体罰やセクシャル・ハラスメント等の根絶に向けた取組を周知し、活動の透明化を図った。

（エ）「Sport-Science Promotion Club」の指定を受けたアーチェリー部が全国大会等への出場を果たした。同部の取組を他の部活動の競技力の向上等に生かす体制づくりを行った。

（オ）5 月に東京都統一体力テストを実施し、生徒が課題を持って体力向上に取り組み、生涯を通じてどんな困難な状況においても自分らしく生きるための意識の向上を図った。

（カ）ESS 部の英語指導など松が谷小学校との交流が盛んになり、中学生の体験入部なども実施した。

キ　生命尊重と人権感覚の磨かれた生徒の育成への取り組み

（ア）外部講師を招き、生徒対象のセーフティ教室（7 月）や部活動生徒対象の救命救急教室（7 月）を実施した。がん教育講演会（12 月）、性教育講演会（12 月）、命の講演会（3 月）を実施した。

（イ）4月にスクールカウンセラー（SC）による1年生全員面接を実施した。またSCを講師に教員対象の教育相談研修会を実施した。特別支援教育については地域拠点校と情報交換を行った。

（ウ）全学年対象にいじめに関するアンケート調査を各学期1回ずつ計3回実施し、気になる生徒には聞き取りを実施した。今後も校内における情報共有を徹底し、学校いじめ対策委員会を核に発生時の早期対応を心がける。

（エ）１年生全員を対象に、１２月に性教育講演会、3月に自殺予防教育講演会として助産師を招いた「命の講演会」を実施した。また、２年生全員を対象に、１２月にがん教育講演会を実施した。

（オ）「都立学校間交流教育」事業を通じて、地域の拠点校である南大沢学園との部活動交流を実施した。今後も発達障害等の生徒への対応を含め連携を充実させる。

（カ）令和4年4月からの18歳成年制度を受け、公民科や家庭科の授業で契約など消費生活に関する基本的な知識や消費者として主体的に行動できる能力と態度を身に付ける指導を行った。今後も外部講師を活用した主権者教育、消費者教育、租税教育等も充実させる。

ク　環境・健康・安全教育の取り組み

（ア）今年度は、松が谷商店街「コミュニティプレイスまつまる」での交流体験学習ができなかったが、松が谷小学校での夏祭りに和太鼓部やダンス部、生徒会が参加し、地域との交流を深めた。

（イ）教科「人間と社会」を学年担任や進路指導部等と連携して計画的に実施した。

（ウ）環境に関する意識を高めるために、全校体制で省エネに取り組み、生活指導部が主導してごみの分別指導の徹底等について環境委員を中心とした指導を行った。

（エ）新型コロナウイルス感染防止を徹底するとともに、安全・安心な学校づくりのため、安全教育、防災教育の充実を図る。セーフティ教室及び避難訓練を全学年対象に実施した。

（オ）痴漢・露出狂や不審者報告が複数回あり、南大沢警察署と連携して捜査協力を行った。生徒には引き続き「被害に会ったら 110 番」と注意喚起し、警察との情報共有をさらに強化する。

ケ　地域に根ざした学校づくりへの取り組み

（ア）学校運営連絡協議会を年 3 回（6 月・10 月・２月）実施するとともに、地域の小学校 1 校及び中学校 3 校の学校運営協議会に参加し、地域からの要望や意見を反映した学校運営の透明化を図った。

（イ）改訂した学校危機管理マニュアルを基に、今後も自然災害発生時や避難所としての対応、事故･事件発生時の対応や連絡体制を明確にした危機管理体制を地域と連携して構築する。

（ウ）部活動指導員や外部指導員を有効活用し、教員の部活動指導における負担軽減を行った。「業務効率化」68.7%。今後も教員のライフ・ワーク・バランスの推進を一層図っていく。

（エ）年次有給休暇の積極的な取得など、残業上限が月４５時間超過とならないよう注意・喚起を促し、教職員の心身の健康を守る学校づくりを進めた。

（オ）５日間の学校閉庁日を設定した。男性教員１名が育児休暇を取得した。

コ　広報活動充実への取り組み

（ア）感染予防対策を徹底させた上で、8 月の学校見学会（3 日間）、10 月と 11 月の学校説明会 2 回、11 月の都立合同説明会、12 月の縮小版学校説明会、1 月の個別相談会を実施した。全体で 4100 名の参加があり、昨年度の 2658 名を大幅に上回った。

（イ）入学者選抜の最終倍率は、推薦に基づく選抜が普通科 2.86、外国語コース 2.25、学力検査に基づく選抜が普通科 1.36、外国語コース 1.45 であった。２年連続で増学級が続いているが、普通科は昨年度と同倍率を維持し、外国語コースにおいては、昨年度推薦倍率 1.54、学力検査倍率 1.18 から大きく上昇した。

（ウ）外国語コース説明会を 11 月の学校説明会と一体化し、JET や ALT との TT による体験授業や生徒の英語スピーチ発表を実施して外国語コースの特色を十分に伝える内容とした。

（エ）今年度も学習塾等を対象とした学校見学・説明会を 11 月に実施した。本校の取組や特色を積極的に PR したところ好評であったので来年度も実施する。

（オ）ホームページの更新を計 314 回以上行った。今後もタイムリーな話題や部活動情報等の更新を頻繁に行うなど、本校の教育活動を分かりやすく、迅速かつ正確に発信する。

サ　経営企画室の経営参画の推進

（ア）経営参画ガイドラインに基づき、経営企画室と教員との連携を強化して業務を遂行した。また教育庁関係部署等との調整等により経営参画を推進し、各課題の解決を図った。

（イ）次年度の自律経営予算についてヒアリング等を通じて教員と意識を共有し、計画的・適正な編成を行った。また増学級対応を含め、臨機応変かつ効率的な予算執行に努めた。

（ウ）一般需用費のセンター執行率は 55.0%で、入学者選抜においてのインターネット出願事務や個人情報管理、会計事故防止等について教員との連携も円滑に進めた。

（エ）生徒の生命、身体に関わる事故を未然に防止するため、教員と連携しながら日常的な施設、設備の点検を実施し、連絡調整や修理等速やかな対応を行った。

２　数値目標

内　　容	目　　標	達　成　度
学校評価アンケート 本校満足度	９０％以上	今年度　生　徒　９０％ 保護者　９５％
自宅学習時間（授業以外で自習する） の確保	毎日１時間以上を ４０％以上	今年度　３０％
学校評価アンケート 授業満足度	８５％以上	学校評価における生徒の肯定的 割合　今年度　８１％
読書活動の推進 ビブリオバトル含む読書の意欲	９０％以上	１・２年生の生徒の肯定的割合 今年度　８４％
英語検定 準１級、２級、準２級取得者数	準１級　　５名以上 ２級　８０名以上 準２級１５０名以上	今年度　準１級　　９名 今年度　　２級　１０９名 今年度　準２級　１５４名
英語教育の充実度	９０％以上	学校評価における生徒の肯定的 割合　今年度　９０％
進路決定率	９０％以上	今年度　９１％
長期休業中の講座数 講習・補習の参加人数	前年度以上	今年度　４４講座１８８４名
国公立・難関私立大（早慶上理）現役合格者数 ＧＭＡＲＣＨ現役合格者数 中堅私大（日東駒専）現役合格者数	５名以上 ４０名以上 ７０名以上	今年度　　２名 今年度　１４名 今年度　７１名
学校評価アンケート 部活動満足度	８０％以上	学校評価における生徒の肯定的 割合　今年度　７８％
年間遅刻延べ回数	前年度より減少	今年度　１年　　１５４７回 今年度　２年　２０２９回 今年度　３年　１７８８回
学校見学会、説明会等 参加者数	前年度以上 （新型コロナの状況を踏まえ）	見学会、説明会、入学相談会の 合計　今年度　４１００名
ホームページの更新回数	１６０回以上	今年度　３１４回